

都市再生整備計画 事後評価シート
下田地区

平成27年3月

新潟県三条市

様式2-1 評価結果のまとめ

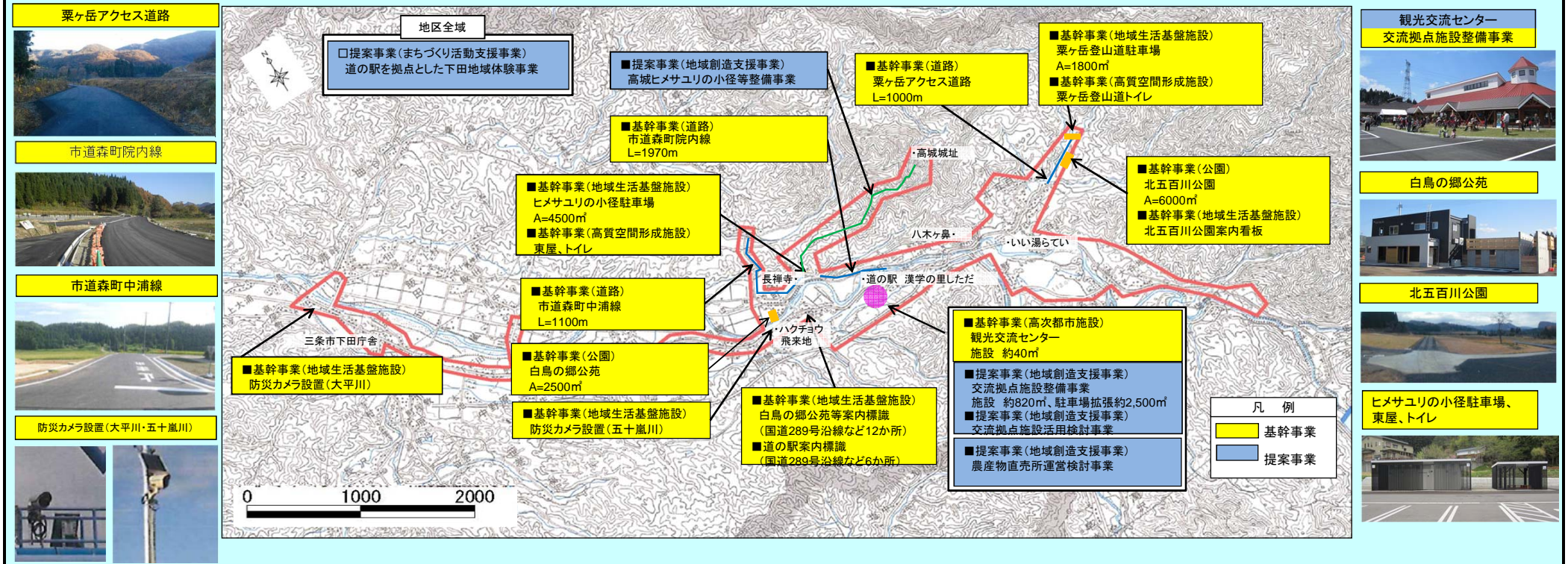
都道府県名	新潟県	市町村名	三条市	地区名	下田地区		面積	690ha	
交付期間	平成22年度～平成26年度	事後評価実施時期	平成26年度	交付対象事業費	765.6	国費率	0.362		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名							
		基幹事業	道路(粟ヶ岳アクセス道路、市道森町院内線、市道森町中浦線)、公園(北五百川公園)、地域生活基盤施設(ヒメサユリの小径駐車場、粟ヶ岳登山道駐車場、北五百川公園案内看板)、高質空間形成施設(ヒメサユリの小径東屋・トイレ、粟ヶ岳登山道トイレ)						
	提案事業	地域創造支援事業(農産物直売所運営検討事業、高城ヒメサユリの小径等整備事業)							
	当初計画から削除した事業	提案事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
			【地域生活基盤施設】白鳥の郷公苑		公園事業として組み替えるため事業を削除するもの。		影響なし		
			【高次都市施設】下田地区観光交流体験センター		建設予定の「下田地区観光交流センター」内において実施する予定だった大谷地和紙の製作体験など事業の継続的な実施が困難なことから建設をとりやめたため削除するもの。		体験プログラム参加者数、道の駅「漢学の里」の利用者数の目標値の減。(各10%増→各5%増)		
			【地域創造支援事業】道の駅レストラン改修事業		道の駅のレストランの改修、地元農産物直売所整備、地元農産物加工所整備を一体として行うため削除するもの。		影響なし		
			【地域創造支援事業】農産物直売所整備事業		道の駅のレストランの改修、地元農産物直売所整備、地元農産物加工所整備を一体として行うため削除するもの。		影響なし		
			【地域創造支援事業】地元農産物加工所整備事業		道の駅のレストランの改修、地元農産物直売所整備、地元農産物加工所整備を一体として行うため削除するもの。		影響なし		
			【地域創造支援事業】地元農産物加工所活用事業		道の駅のレストランの改修、地元農産物直売所整備、地元農産物加工所整備を一体として行うため削除するもの。		影響なし		
			【事業活用調査】事後評価モニタリング等調査委託事業		委託ではなく直営で実施するため削除するもの。		影響なし		
			【まちづくり活動推進事業】白鳥への餌やり体験事業		災害のため実施できなかったため削除するもの。		影響なし		
			【まちづくり活動推進事業】地元食材を活かしたメニュー開発事業		道の駅を拠点とした下田地域体験事業に統合するため事業を削除するもの。		影響なし		
			【まちづくり活動推進事業】飲食店をめぐる食べ歩きツアー事業		道の駅を拠点とした下田地域体験事業に統合するため事業を削除するもの。		影響なし		
			【まちづくり活動推進事業】大谷地和紙制作後継者育成事業		「下田地区観光交流センター」内で事業実施予定だったが、センター建設のとりやめに伴い実施が困難になったため事業を削除するもの。		体験プログラム参加者数、道の駅「漢学の里」の利用者数の目標値の減。(各10%増→各5%増)		
			【まちづくり活動推進事業】大谷地和紙原材料育成事業		原材料の育成について対応できるものが少ないことから、地元でできる範囲で事業を実施するため削除するもの。		体験プログラム参加者数、道の駅「漢学の里」の利用者数の目標値の減。(各10%増→各5%増)		
	【まちづくり活動推進事業】住民による農業体験プログラムの拡充事業		道の駅を拠点とした下田地域体験事業に統合するため事業を削除するもの。		影響なし				
	【まちづくり活動推進事業】農家民泊事業		市内に点在する宿泊施設での受け入れ態勢を見直す中、今後検討することとなったため事業を削除するもの。		体験プログラム参加者数、道の駅「漢学の里」の利用者数の目標値の減。(各10%増→各5%増)				
	新たに追加した事業	基幹事業	【公園】白鳥の郷公苑		地域生活基盤施設から公園事業として組み替えるため事業を追加するもの。		影響なし		
			【地域生活基盤施設】案内標識(ヒメサユリの小径、白鳥の郷公苑)		整備施設へのスムーズな案内のため事業を追加するもの。		影響なし		
【地域生活基盤施設】案内標識(道の駅)			整備施設へのスムーズな案内のため事業を追加するもの。		影響なし				
【地域生活基盤施設】防災カメラの設置			地域資源の保全及び観光客の安全安心を確保するため、防災カメラ設置するため事業を追加するもの。		影響なし				
【高次都市施設】交流拠点観光交流センター			提案事業の一部を、観光交流施設とするため、地域創造支援事業から切り分けて事業を追加するもの。		影響なし				
【地域創造支援事業】交流拠点施設整備事業			道の駅内のレストランや情報発信コーナーなどの改修、地元農産物直売所整備、地元農産物加工所整備及び駐車場の拡張を一体として行うため事業を追加するもの。		影響なし				

			【地域創造支援事業】交流拠点施設活用検討事業				農産物加工所活用事業を単独で行うのではなく、レストラン、直売所、加工所を一体とした交流拠点施設全体事業としての活用の検討を行うため事業を追加するもの。			影響なし		
			【まちづくり活動推進事業】道の駅を拠点とした下田地域体験事業				地元食材を生かしたメニュー開発、飲食店をめぐる食べ歩きツアー、住民による農業体験プログラムの拡充事業を統合した事業を実施するため事業を追加するもの。			影響なし		
	交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	下田地区の観光入込客数	人/年	456,760	H20	479,600	H25		582,310	○	あり なし	-
	指標2	体験プログラム参加者数	人/年	20,528	H20	21,555	H25		39,468	○	あり なし	-
	指標3	「いい湯らてい」の入館者数	人/年	207,352	H20	217,800	H25		191,561	△	あり なし	-
	指標4	道の駅「漢学の里」の利用者数	人/年	12,832	H20	13,474	H25		168,216	○	あり なし	-
指標5	地区の小売金額	万円/年	427,983	H19	449,400	H24		計測不能	-	あり なし	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	森町中浦線、森町院内線の整備により狭かった道路が拡幅され、ヒメサユリの小径へのアクセスと他施設への車での移動が容易になった。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	交流拠点施設活用検討事業、農産物直売所運営検討事業、高城ヒメサユリの小径等整備事業、道の駅を拠点とした下田地域体験事業			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も地域の方が参加できるように引き続き協力を行っていく。		
持続的なまちづくり体制の構築	体験型プログラムの充実			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	地元住民の方が主体的な活動を継続して実施できるように引き続き協力し地域の観光資源を活用していく。			

様式2-2 地区の概要

下田地区(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	年	値	年	値	年
大目標:「自然環境をはじめとする下田の地域資源を活用した着地型観光の地域づくり」 目標1:自然や食などの地域資源を活かした体験型のグリーンツーリズム、エコツーリズムの充実を図る。 目標2:点在する観光資源を結びつけた回遊性のある観光メニューを創出する。 目標3:地域住民が担い手となる自律可能な通年型観光メニューの創出。	下田地区の観光入込客数	単位:人/年	456,760	H20	479,600	H25	582,310	H25
	体験プログラムの参加者数	単位:人/年	20,528	H20	21,555	H25	39,468	H25
	「いい湯らてい」の入館者数	単位:人/年	207,352	H20	217,800	H25	191,561	H25
	「道の駅漢学の里」の利用者数	単位:人/年	12,832	H20	13,474	H25	168,216	H25
	地区の小売金額	単位:万円/年	427,983	H19	449,400	H24	計測不能	H24



まちの課題の変化	道路事業の整備、観光施設の整備によりハード面での回遊性が向上し、各施設・観光スポットにおけるイベントの連携も図ることができるようになった。今後は、ソフト面での連携を図り下田地域の観光資源を活かした観光振興策の充実と、世界に通用する「ものづくり」の伝統を観光資源とし捉え、国内のみにとどまらず海外を含めたより広範囲な方を対象とした交流人口の更なる拡大が可能であり、それにより新たな観光産業の創出が期待できる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	地域資源を活かした観光振興施策を充実させ、それを国内外に向け効果的、戦略的に発信することで更なる観光産業として成り立つ新たな事業の創出を図るため、地域の方と共に農作業体験やものづくり体験などを体感できる観光プログラムの充実を図る。更に観光施設の回遊性を更に高めることで観光客の利便性を向上させ、観光地としての魅力をアップさせる。また、ターゲットを明確化した情報発信すると共にインバウンド戦略を推進し外国人観光客による交流人口の拡大も図っていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		体験プログラムの参加者数22,600人/年 「道の駅漢学の里」の利用者数14,116人/年	体験プログラムの参加者数21,555人/年 「道の駅漢学の里」の利用者数13,474人/年	平成22年度に「下田地区観光交流センター」建設を取りやめたために伴う目標値の変更(各従前値10%増→5%増)
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	栗ヶ岳アクセス道路	130.0	舗装新設:L=1,000m W=5m 橋梁整備:1基	97.6	舗装新設:L=1,000m W=5m 橋梁整備:1基	既存舗装区間は残し未舗装区間を舗装する事に伴う事業費の減。	影響なし	●	
	市道森町院内線	135.0	道路改築:L=1,970m W=7m	131.8	道路改築:L=1,970m W=7m		影響なし		●
	市道森町中浦線	170.0	道路改築:L=1,100m W=5m	66.2	道路改築:L=1,100m W=5m	今後他事業へ整備を実施する事に伴う事業費の減。	影響なし		●
公園	北五百川公園	37.0	広場、園路 A=6,000㎡	30.9	広場、園路 A=6,000㎡	事業実施に伴う事業費の減。	影響なし	●	
	白鳥の郷公苑			90.2	観察棟、トイレ、広場 A=2,500㎡	平成24年度に計画変更で追加。地域生活基盤施設から組み替えるため事業を追加するもの。	影響なし	●	
地域生活基盤施設	白鳥の郷公苑	55.0	観察棟、トイレ 2,500㎡	0.0		平成24年度に計画変更で削除。公園事業として組み替えるため事業を削除するもの。	影響なし	-	-
	ヒメサユリの小径駐車場	15.0	A=4,500㎡	13.0	A=4,500㎡	事業実施に伴う事業費の減。	影響なし	●	
	栗ヶ岳登山道(駐車場)	4.0	A=1,800㎡	0.9	A=1,800㎡	事業実施に伴う事業費の減。	影響なし	●	
	北五百川公園案内看板	1.0	1基	1.0	5基	当初公園内の案内看板から公園へ誘導する看板の設置に変更。	影響なし		●
	案内標識(ヒメサユリの小径、白鳥の郷公苑)			3.6	12基	平成24年度に計画変更で追加。施設へのスムーズな誘導が必要のため事業を追加するもの。	影響なし	●	
	案内標識(道の駅)			5.3	6基	平成24年度に計画変更で追加。施設へのスムーズな誘導が必要のため事業を追加するもの。	影響なし	●	
	防災カメラの設置			1.7	防災カメラ 2箇所(荻堀、森町)	平成24年度に計画変更で追加。大平川及び五十嵐川の河川状況を把握し、地域資源の保全及び観光客の安全安心を確保するために事業を追加。	影響なし	●	
高質空間形成施設	ヒメサユリの小径(東屋・トイレ)	25.0	東屋1、トイレ1	33.0	東屋1、トイレ1	事業実施に伴う事業費の増。	影響なし	●	
	栗ヶ岳登山道(トイレ)	20.0	東屋1、トイレ1	10.0	トイレ1	東屋を取りやめたことによる事業費の減。	影響なし		●
高次都市施設	下田地区観光交流体験センター	111.0	鉄骨2階建 延床面積=330㎡ 1階:和紙製作体験工房 2階:サツマイモ加工体験、ひこぜん製作体験施設。休憩・飲食スペース等。	0.0		平成22年度に計画変更で削除。「下田地区観光交流センター」内において実施する予定だった大谷地和紙の製作体験など事業の継続的な実施が困難なことから建設をとりやめたため削除するもの。	体感プログラム参加者数、道の駅「漢学の里」の利用者数の目標値の減。(各10%増→各5%増)	-	-
	交流拠点観光交流センター			14.0	観光情報コーナー 延床面積=40㎡	平成24年度に計画変更で追加。観光交流施設として観光情報コーナーを設置するため事業を追加するもの。	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	道の駅レストラン改修事業	55.0	レストラン改修 改修面積:360㎡	0.0		平成22年度に計画変更で削除。 道の駅のレストランの改修、地元農 産物直売所整備、地元農産物加工 所整備を一体として行うため削除す るもの。	影響なし	-	-
	農産物直売所整備等事業	59.0	鉄骨平屋建 延床面積:200㎡	0.0		平成22年度に計画変更で削除。 道の駅のレストランの改修、地元農 産物直売所整備、地元農産物加工 所整備を一体として行うため削除す るもの。	影響なし	-	-
	農産物直売所運営検討事業	5.0	農産物直売所の運営 の検討	1.0	農産物直売所の運 営の検討		影響なし	●	
	地元農産物加工所整備事業	89.0	鉄骨平屋建 延床面積:330㎡	0.0		平成22年度に計画変更で削除。 道の駅のレストランの改修、地元農 産物直売所整備、地元農産物加工 所整備を一体として行うため削除す るもの。	影響なし	-	-
	地元農産物加工所活用事業	5.0	農産物直売所の運営 の検討	0.0		平成22年度に計画変更で削除。 道の駅のレストランの改修、地元農 産物直売所整備、地元農産物加工 所整備を一体として行うため削除す るもの。	影響なし	-	-
	高城ヒメサユリの小径等整備事業	55.0	ヒメサユリの小径コー ス整備、駐車場整備	1.0	コース等の整備・案内 看板・のぼり・ベンチ	トイレの整備、駐車場の整備を見直 し地元の人でできる範囲に事業を見 直したため事業費を減額。	影響なし	●	
	交流拠点施設整備事業			256.4	・レストラン改修(厨 房、客席ホール、壁・ 床クロス等の張替え) ・農産物直売所兼加 工所建設 ・駐車場の拡張整備	平成22年度に計画変更で追加。 道の駅内のレストランや情報発信 コーナーなどの改修、地元農産物直 売所整備、地元農産物加工所整備 及び駐車場の拡張を一体として行う ため事業を追加するもの。	影響なし	●	
交流拠点施設活用検討事業			5.0	交流拠点施設の効率 的・効果的な運営を地 元有志団体で行うた めの検討会や研修会 の実施。	平成22年度に計画変更で追加。 農産物加工所活用事業を単独で行 うのではなく、レストラン、直売所、加 工所を一体とした交流拠点施設全体 事業としての活用の検討を行うため 事業を追加するもの。	影響なし	●		
事業活用調査	事後評価モニタリング等調査委託事 業	5.0	実施成果検証に係る モニタリング調査	0.0		民間委託ではなく直営で行うため削 除するもの。	影響なし	-	-
まちづくり 活動推進事業	白鳥への餌やり体験事業	5.0	地元自治会の協力に よる餌やり体験	0.0		平成25年度の計画変更で削除。災 害の影響により平成24年の事業実 施ができなかったため削除するも の。	影響なし	-	-
	地元食材を生かしたメニュー開発事 業	5.0	下田地区の魅力を アップするため、新メ ニュー開発や特産品 開発を行うための検 討会、研修会の実施	0.0		平成24年度に計画変更で削除。 道の駅を拠点とした下田地域体験事 業に統合するため削除するもの。	影響なし	-	-

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	数値(エ)	数値(エ)	目標達成度※2	あり	なし		
指標1	下田地区の観光入込客数	人/年	下田地区の観光入込客数を計測	-	-	456,760	H20	479,600	H25	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	582,310	事後評価	○	
指標2	体験プログラム参加者数	人/年	うきうきフェスタなどの体験プログラム参加人数を計測	-	-	20,528	H20	21,555	H25	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	39,468	事後評価	○	
指標3	「いい湯らてい」の入館者数	人/年	「いい湯らてい」の入館者数を計測	228,701	H12	207,352	H20	217,800	H25	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	191,561	事後評価	△	
指標4	道の駅「漢学の里」の利用者数	人/年	道の駅「漢学の里」の利用者数を計測	-	H10	12,832	H20	13,434	H25	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	168,216	事後評価	○	
指標5	地区の小売金額	万円/年	商業統計による下田地区小売金額	594,965	H9	427,983	H19	449,400	H24	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	計測不能	事後評価	-	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	観光施設の整備に加え、森町中浦線等の道路整備により観光客を効果的に各観光施設に回遊させることが出来たこと及び、既存イベントに加え新しくイベントや体感型プログラムなどの実施をしたため観光入込客数が増えた。	
指標2	平成22年度から地元住民の方が入った下田郷魅力発信協議会による「うきうきフェスタ」の実施により下田地区の体験プログラムの参加者数が増加した。	
指標3	平成23年7月による水害で建物が被害を受け、約3か月営業ができなかったため一時入館者数が激減してしまった。その後イベントなどにおいて周辺観光施設といい湯らていと連携を図ることで入館者数は一部回復したものの目標値に届かなかった。	
指標4	交流拠点施設整備において道の駅をリニューアルしたことにより利用者数が増えた。	当初指標ではレストラン悟空、諸橋轍次記念館の利用者数だけで、一体として整備した農産物直売所の人数を目標値として入れ込まなかったため評価値が目標値を大幅に上回った。
指標5	指標の設定時において商業統計の下田地区小売金額を目標値に設定していたが、H24商業統計から地区毎の金額が出なくなったため計測不能となった。	設定時その後随時統計調査の内容を確認し評価できない場合は別の目標値を設定する必要がある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

森町中浦線、森町院内線の整備により狭かった道路が拡幅され、ヒメサユリの小径へのアクセスと他施設への車での移動が容易になった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
交流拠点施設活用検討事業	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成23年度～平成24年度 【実施効果】 下田地区交流拠点施設運営協議会を設立し地産地消レストラン・直売所・加工所の有機的な連携や特産品開発の勉強会、道の駅運営組織発足のため講習会や検討を行った。	下田地区交流拠点施設において地元住民の方が携わった意見を反映させていく。
農産物直売所運営検討事業	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成22年度～平成23年度 【実施効果】 しただ郷道の駅直売推進協議会において農産物直売所の有効な集客方法や施設の機能、効率的な運営を検討すると共に現行の農産物直売所の知名度向上のためのイベント開催・パンフレット作成を行った。	協議会においての意見を今後の施設運営につなげていく。
高城ヒメサユリの小径等整備事業	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成22年度 【実施効果】 地元住民の方が高城ヒメサユリの小径の案内看板やのぼりなどを作成し、観光客の満足度・リピーターの増加に寄与した。	トレッキングコースであるヒメサユリの小径や越後三条・高城ヒメサユリ祭りで整備したものを有効活用していく。
道の駅を拠点とした下田地域体験事業	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 【実施時期】平成25年度 【実施効果】 下田郷魅力発信協議会において道の駅を中心とした様々なイベントを企画し下田地域の観光客の増加に寄与した。	地元住民の方が主体的な活動を継続して実施できるように引き続き協力し地域の観光資源を活用していく。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
体験型プログラムの実施	予定どおり実施した	● 地元の方が地域の魅力を発信できるように組織を立ち上げ、うきうきフェスタなど様々な体験プログラムの実施、拡充を図り下田地域の観光客の増加に寄与した。	下田郷魅力発信協議会 下田地域の自然や歴史、文化、食など多様な資源を活かし、地域の活性化を図るために地元住民の方が参加している団体。	地元住民の方が主体的な活動を継続して実施できるように引き続き協力し地域の観光資源を活用していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制


名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 経済部 営業戦略室 建設部 建設課	平成26年7月～9月	営業戦略室

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標4			
指標名		下田地区の観光入込客数	体験プログラムの参加者数	道の駅「漢学の里」の利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	道路事業(粟ヶ岳アクセス道路)	○	交流拠点施設(道の駅漢学の里)の改修、白鳥の郷公苑などを整備する事で、観光入込客数が増加した。 また、道路事業の整備により観光施設、観光地を点ではなく面で有機的に連携できるようになり観光入込客数の増加に寄与した。	○	平成22年度から地元住民の方が入った下田郷魅力発信協議会において「うきうきフェスタ」を実施し、下田地区の体験プログラムを実施・拡充することにより体験プログラムの参加者数が増加した。		
	道路事業(市道森町院内線)	○		○		○	
	道路事業(市道森町中浦線)	○		○		○	○
	公園事業(北五百川公園)	○		○		○	○
	公園事業(白鳥の郷公苑)	◎		○		○	○
	地域生活基盤施設(ヒメサユリの小径(駐車場))	◎		○		○	○
	地域生活基盤施設(粟ヶ岳登山道(駐車場))	○		○		○	○
	地域生活基盤施設(北五百川公園(駐車場))	○		○		○	○
	地域生活基盤施設(案内標識((ヒメサユリの小径、白鳥の郷公苑))	○		○		○	○
	地域生活基盤施設(案内標識(道の駅))	○		○		○	◎
	地域生活基盤施設(防災カメラの設置)	○		○		○	○
	高質空間形成施設(ヒメサユリの小径(東屋・トイレ))	◎		○		○	○
	高質空間形成施設(粟ヶ岳登山道(トイレ))	○		○		○	○
高次都市施設(交流拠点観光交流センター)	◎	○	○	◎			
提案事業	地域創造支援事業(交流拠点施設整備事業)	◎	○	○	◎		
	地域創造支援事業(交流拠点施設活用検討事業)	○	-	-	○		
	地域創造支援事業(農産物直売所運営検討事業)	○	-	-	○		
	地域創造支援事業(高城ヒメサユリの小径等整備事業)	◎	○	○	-		
	まちづくり活動推進事業(道の駅を拠点とした下田地域体験事業)	◎	◎	◎	◎		
関連事業							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。



今後の活用	整備した魅力ある観光資源を有効活用した体験プログラムの充実や観光施設の回遊性を高めると共に効果的な情報発信に努める。	引き続き地元住民の方と体験プログラムの充実と拡充を図っていく。	利用者に魅力のある道の駅づくりを継続して行い下田地区の観光拠点となるように努める。	
-------	--	---------------------------------	---	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標3											
指標名		「いい湯らてい」の入館者数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路事業(粟ヶ岳アクセス道路)	△	平成23年7月による水害で建物が被害を受け、約3か月営業ができなかったため一時入館者数が激減してしまった。その後イベントなどにおいて整備した観光施設といい湯らていと連携を図ることで入館者数は一部回復したものの目標値に届かなかった。	Ⅲ									
	道路事業(市道森町院内線)	△											
	道路事業(市道森町中浦線)	△											
	公園事業(北五百川公園)	-											
	公園事業(白鳥の郷公園)	△											
	地域生活基盤施設(ヒメサユリの小径(駐車場))	△											
	地域生活基盤施設(粟ヶ岳登山道(駐車場))	△											
	地域生活基盤施設(北五百川公園(駐車場))	△											
	地域生活基盤施設(案内標識(ヒメサユリの小径、白鳥の郷公園))	-											
	地域生活基盤施設(案内標識(道の駅))	-											
	地域生活基盤施設(防災カメラの設置)	-											
	高質空間形成施設(ヒメサユリの小径(東屋・トイレ))	△											
高質空間形成施設(粟ヶ岳登山道(トイレ))	△												
高次都市施設(交流拠点観光交流センター)	△												
提案事業	地域創造支援事業(交流拠点施設整備事業)	△											
	地域創造支援事業(交流拠点施設活用検討事業)	-											
	地域創造支援事業(農産物直売所運営検討事業)	-											
	地域創造支援事業(高城ヒメサユリの小径等整備事業)	-											
関連事業	地域創造支援事業(道の駅を拠点とした「いい湯らてい」の活動推進事業)	△											

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	ものづくり産業といい湯らていの持つ健康資源(温泉、食事、運動など)を連携させた新しい観光プログラムを展開し、県内外からの入館者の増加を図り地域経済の再活性化につなげる。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織	総務部 行政課 経済部 営業戦略室 建設部 建設課	平成26年7月～9月	営業戦略室

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
観光スポットが点在していることにより有効に観光資源として活かされていない。	道路事業の整備により観光施設・観光スポットを回遊できるようになり、各施設のイベントなどにおいて連携を図れるようになった。	道路事業の整備によりハード面での観光施設・観光スポットの回遊性は向上した。ソフト面では、イベントでの同時開催といった連携を一部行うようになったが、まだ十分に活用しきれていない。	
お祭りやイベントの時期の観光客の入込客数が多いものの、年間を通じての入込客数は少ない。	新たな観光施設を整備することで通年で観光客が訪れるようになった。また、下田郷魅力発信協議会による年間を通じた体験プログラム「うきうきフェスタ」も実施することで全体的な入込客数の底上げを図ることができた。		
「食」を満足させる要素が少ない。	整備した交流拠点施設において新たに地元農産物・特産物を使ったレストランメニューの開発、地元特産物の商品開発などを行い不足していた食の満足向上を図ることができた。		
観光が個人型にシフトしている中、人気となっている「体験型観光」が少ない。	平成22年度から地元住民の方が入った下田郷魅力発信協議会において「うきうきフェスタ」を実施し、下田地区の体験プログラムを拡充する事ができた。		
来訪者アンケートによると観光施設、観光地、イベントの認知度が低く観光情報の提供、料理、宿泊施設、土産物の充実要望が多い。	観光情報コーナー、レストラン改修、農産物加工所兼直売所を交流拠点施設の整備を行いアンケートの充実要望に応えることができた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	体験型プログラムの充実	農作業体験やものづくり体験などの三条市の魅力を体感できる観光プログラムの更なる充実と、ターゲットを明確にした効果的な情報発信を行うことで交流人口の拡大を図る。	自然環境等の地域資源を活用した体験型観光プログラムの充実
	インバウンド戦略の推進	海外の博覧会への出展やファムトリップなどを実施し、世界に通用する「ものづくり」を中心に食や観光資源なども含めた三条市の魅力を発信することで、外国人観光客による交流人口の拡大を図る。	・海外の博覧会等への参加 ・ファムトリップの実施 ・外国人観光客の誘致

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	各施設・観光スポットの連携したイベント、体験型プログラムの開発	農作業体験やものづくり体験などの三条市の魅力を体感できる観光プログラムを開発する。	自然環境等の地域資源を活用した体験型観光プログラムの開発

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	下田地区の観光入込客数	人/年	456,760	H20	479,600	H25	確定 ●	582,310	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標2	体験プログラム参加者数	人/年	20,528	H20	21,555	H25	確定 ●	39,468	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標3	「いい湯らてい」の入館者数	人/年	207,352	H20	217,800	H25	確定 ●	191,561	△	あり	→		
							見込み			なし			
指標4	道の駅「漢学の里」の利用者数	人/年	12,832	H20	13,434	H25	確定 ●	168,216	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標5	地区の小売金額	万円/年	427,983	H19	449,400	H24	確定	計測不能	-	あり	→		
							見込み			なし			
その他の数値指標1				H			確定				→		
				H			見込み				→		
その他の数値指標2				H			確定				→		
				H			見込み				→		
その他の数値指標3				H			確定				→		
				H			見込み				→		

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		それぞれの指標を補完できるようなデータを集めて設定・測定しておく必要がある。
	うまく いかなかった点	当初数値目標を設定後評価値が計測できない指標があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
三条市中心市街地地区、須頃地区、大崎地区
- ・今後、事後評価を予定する地区
緑の里・保内地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページを通してインターネット上で評価結果を公表し、意見収集を行う。	平成27年3月2日～3月16日	平成27年3月2日～3月16日	担当課への郵送、FAX、Eメール、持参	営業戦略室 建設課
広報掲載・回覧・個別配布	三条、栄、下田庁舎及び各地区公民館に印刷物を置き、意見収集を行う。	平成27年3月1日発行 広報さんじょう3月1日号	平成27年3月2日～3月16日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		
住民の意見	特になし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	近藤 雄介 (三条商工会議所 都市開発委員長)	平成27年3月20日(金)	営業戦略室	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後評価等委員会要綱	独自に設置
その他の委員	三条観光協会 副会長 新潟県三条地域振興局 計画調整課長 三条市自治会長協議会 役員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	-
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・白鳥の郷公苑の案内板がわかりにくい。今一度、見直したほうが良いのではないかと意見があった。 ・目標値の数字がとても細かい数字になっているが、千人単位でも良いのではないかと意見があった。 ・評価指標については10万人以上増加ということからすると良い評価であるという意見があった。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実施過程の評価について、適正であることが確認された。
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・効果発現要因の整理について、適正であることが確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価原案の公表の妥当性について、適正であることが確認された。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・まず女性客が集まるような仕組みが必要である。女性が観光に行ってくると話題になるのは「食べ物」。また、すばらしい観光資源があるのだから、観光の宝を発掘してほしい。八木ヶ鼻を真下から見上げたことはあるか。個人的には体験できたら面白いという意見があった。 ・10年以内の国道289号開通を考えると、現在の国道289号の幅員が狭い。道の駅がとても重要になってくるが、場所が悪く目立たない。また、冬期間になると荒沢地区において、除雪の影響により幅員が狭くなることから、通行する車は下田地区に立ち寄りことなく、急いで通過したいと考えてしまう。おもいきって道路法線を今の道の駅経由で計画して整備してはどうかという意見があった。 ・下田は八木ヶ鼻、粟ヶ岳エリアの資源を生かした観光の拡大が必要という意見があった。 ・観光箇所が点在していることから、さらに道路整備、観光情報発信を広げていくと良いという意見があった。 ・将来的に外国の方を迎えたり、下田地区の資源と中心街の産業を併せて計画してみてもどうかという意見があった。 ・下田地区に長く滞留してもらえるような仕掛け、手法がほしい。せっかくの資源を利用してもらいたい。山ヒルや鳥獣被害への対策が必要という意見があった。
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。